

1. 研究課題 B-2 学校評価における専門的な助言の活用

2. 実践研究のねらい

「学校評価・情報提供の充実・改善等に向けた取組」は、教育水準の向上を図り、保護者、地域に信頼される学校の実現を目指す上で不可欠である。これまでの学校運営の改善に役立つ学校評価の取組の中での課題は、次の3点である。

1. 長期展望に立った、組織的・継続的な学校評価の推進
2. 保護者・地域と学校の連携（学校応援団づくりに生きる）を図る評価
3. 教育委員会の支援に結びつく学校評価

この課題解決のために、具体的には三つの専門的な助言システムを構築する。

1. 学校評価アドバイザーシステム
2. スペシャルアドバイザーシステム
3. エプロンアドバイザーシステム

そのためには、次の二つのことを重視した取組を行う。

- 1) 評価過程の「可視化」と公表等の工夫
- 2) 改善方策の明確化（学校、保護者、教育委員会等）

3. 実践研究の内容

(1) 具体的内容及び方法（対象：市内12校）

1 学校評価アドバイザーシステムの導入

- ・自己評価、学校関係者評価の実施上の問題点についての専門的な助言を得る。

2 スペシャルアドバイザーシステムの導入

～改善策をより明確にする専門的視点からの評価の実施（第3者評価を目指した取組）～

- ・学校の特性や課題策を踏まえた「三つの類型化」による評価の実施

<三つの類型>

<評価委員>

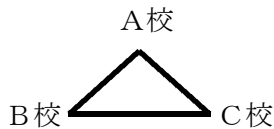
(1) I類 単独校（一校） ● ◎ ○

- ・各校は自己評価、学校関係者評価の結果から生まれた課題（学力向上、生徒指導、社会教育など）に応じてその分野の専門家を人選する。
- ・専門家は、改善策をより明確にする専門的視点から評価を実施する。

(2) II類 小中一貫校（二校） 小学校 ● ◎ + ⊕ ⊗  
⊕ — ⊕ 中学校 ● ◎ + ⊕ ⊗

- ・小中一貫では、大学の先生、元校長等とA小学校、B中学校等代表による評価を行う。
- ・小中一貫の学区では、そのメリットを生かすために、小学校、中学校の教員が中学校に集まり、それぞれの取組を発表する。小学校の発表には中学校の教員が、中学校発表には小学校の教員が意見を述べる
- ・専門家は、小学校、中学校の自己評価、学校関係者評価の結果について、改善策をより明確にするために、小中一貫の9年間の子どもの学びの保障という発達の視点等の専門的視点から評価を行い、よりよい改善策を示す。
- ・各校の参加者は、学校へ戻ってアドバイザーの評価や他校の参加者の評価を伝えて改善策を明らかにする。

(3) Ⅲ類 小規模校・複式学級（三校）



A校	●	◎	Ⓐ	Ⓒ
B校	●	◎	Ⓐ	Ⓑ
C校	●	◎	Ⓐ	Ⓑ

- ・ 三つの小規模校では、大学の先生、元校長等、A校、B校、C校の代表による評価を行う。
- ・ A校の学校評価の発表を行い、他のB校C校の参加者は、意見を述べる。
- ・ B校の学校評価の発表を行い、他のA校C校の参加者は、意見を述べる。
- ・ C校の学校評価の発表を行い、他のA校B校の参加者は、意見を述べる。
- ・ 専門家は、小学校、中学校の自己評価、学校関係者評価の結果について、改善策をより明確にするために、小規模・複式学級などの課題に対して専門的視点から各校に対し、評価を行い、よりよい改善策をい示す。
- ・ 各校の参加者は、学校へ戻りアドバイザーの評価や他校の参加者の評価を伝え、自校の改善策を明らかにする。

3 エプロンアドバイザーシステムの導入

- (1) 市民から（公募）した優れた市民感覚の持ち主による学校評価に関する情報提供
- (2) 評価過程の可視化と公表の工夫

4 「スクールアカウントビリー in みつけ」の実施

- (1) 全学校（13校）が一堂に介し、市民に対して取組の説明責任を果たす。
- (2) プレゼンテーションを活用した公表の工夫

5 取り組みの評価

- (1) 学校評価アドバイザーの助言により各校にどのような課題があり、それをどのように解決していったのか様々な事例を蓄積する。
- (2) 専門家の視点から自己評価、学校関係者評価を踏まえてどのような改善策を明らかにすることができたのか、三つの類型毎に有効な助言の活用の仕方を明らかにする。

(2) 実践研究計画

	実施計画	備考
4月		
5月	○第1回学校評価推進委員会（趣旨説明、選定依頼、組織作り） ・エプロンアドバイザーの公募	
6月	①三つの類型による各校の評価計画の説明と理解（専門家チーム派遣）	
7月	◇アンケートによる自己評価の実施 ○第2回学校評価推進委員会 （学校評価関係者委員の意見の集約、研修会の企画立案）	
8月	○第3回学校評価推進委員会（研修会準備） □学校関係者評価委員会研修 （学校評価アドバイザーによる講話、委員の意見交換）	
9月	②三つの類型による各校の中間評価（専門家チーム派遣）	
10月	○スクールアカウントビリティinみつけ ・エプロンアドバイザーの参加	
11月	□第4回学校評価推進委員会	
12月	◇アンケートによる自己評価の実施	
1月	○シンポジウムの開催（見附発！多くの声で学校パワーアップ！） □第3回学校関係者評価委員会	
2月	③三つの類型による各校の年度末評価（専門家チーム派遣） ○学校評価推進委員会（事業成果のまとめ） ◇各校ごとの「学校評価だより」の発行	
3月	◇次年度評価計画の作成 ◇教育委員会への学校評価報告書の作成・提出	

4. 事業の実施体制図

